

vol.03

2023年12月 -
2024年3月

伊豆半島ジオパーク News Letter

今号のトピックス

- ・ 世界ジオパーク認定五周年
- ・ ジオパークロゲイニング大会
- ・ イベントレポート
- ・ ジオリア企画展
- ・ ジオ学習
- ・ ジオ検定 1.2級
- ・ ESD 報告
- ・ 全国研修会への参加
- ・ etc.

3/10 伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク認定5周年記念イベント



修善寺町巡りジオツアーの様子



小山先生による認定記念講演



修善寺をイメージしたジオ生け花



中庭で行われたワークショップ

3月10日に修善寺総合会館及びその周辺にて開催したイベントには約120名が参加しました。廃プラスチックのアクセサリ作りワークショップや、子どもたちとの持続可能な地域づくりといった地域住民による取組の紹介や、次世代ジオガイドリーダーとして育成中の若手ジオガイドによる修善寺ジオツアーが開催されたほか、詩人の水沢なお氏と佐々木研究員によるジオ文豪カフェが開催されました。そのほかジオパーク域内での研究を支援するための学術助成対象の研究発表会、そして午後開催された静岡大学小山真人教授による記念講演「伊豆半島ジオパークの歩みとこれから」には多くの聴講者が訪れ、耳を傾けました。

ジオ文豪カフェ「圓部の人」

GEO CAFE

伊豆半島の文学の世界をテーマとしたジオカフェのシリーズ、「ジオ文豪カフェ」。今回は中原中也賞を受賞した長泉町出身の詩人、水沢なおさんをお招きしました。水沢さんの作品の一貫したテーマである“いきもの”へのまなざしと、ジオパークの生態系研究員による“生き物”のおもしろさ。ふたつの視点を対比させながら進行了ました。ファシリテーターは静岡大学の山本隆太准教授がつとめました。会場は修善寺のITJBaseで、定員いっぱいの21名が参加しました。



Event
report

静岡ガスグループとの食をテーマとした連携イベント「ジオぱく」



海女さんの海の道具と伊豆の素材のわっぱ飯

後半の調理体験では、静岡ガスシェフ・ム柿田川のスタッフが下準備した伊豆の食材を用いた材料を、お正月らしい華やかな盛りつけのポイントを教わりました。難しくなく楽しめた。美味しかった！といった声が届きました。

三方を海に囲まれた伊豆半島。静岡ガスグループと連携した「食」をテーマとしたイベントシリーズ「ジオぱく」では今年も海の話が尽きません。今回は昔ながらの海の仕事のひとつ、海女さんからお話を聞くことにしました。海女さんと言っても、南伊豆から今回おいでいただいたのは男性。地元では海女さんのことを「かつぎ」と呼ぶそうです。地域によって異なる海女さんの世界の決まりごと、海の中で数年前から磯焼けによって禁漁期間が続いていることなど、話題は多岐にわたりました。参加者からは、なかなか知る機会のない海の仕事の現場の話聞くことが出来てよかった、驚いた、といった声をたくさんいただきました。



1/8 ジオぱく「海のお仕事」

2/23 楽寿園のマルシェで「火山たんけん」ワークショップ

三島市楽寿園で2016年より毎年富士山の日に開催されている「富士山いただきマルシェ」は、三島の市民団体が主催するイベントです。ジオパークの「火山たんけん」ブースでは、楽寿園と富士山の噴火の関係を体験しながら学べるワークショップを行っています。毎年子どもたちをはじめ多くの来場者でにぎわいますが、今年はいにくの雨で気温も低く、例年に比べて人出がぐっと少ない一日となりました。旅行で伊豆を訪れている観光客の方や、地元の親子連れの方などがばらばらと立ち寄ってジオガイドの説明を受け、体験を楽しんでいかれました。



楽寿園の浴衣をチョコで再現

3/23 伊豆半島ジオパークロゲイニング大会 2024 を沼津市・清水町で開催

3月23日(土)に沼津市および清水町でロゲイニング大会を開催しました。当日は悪天候の中97チーム、208人の方にご参加いただきました。当日は大会のホストシティで市制100周年を迎えた沼津市の頼重市長に開会のお言葉をいただき、競技の開始を告げると、堰を切ったように参加者たちが配られた地図を一齐に広げ、巡回するルートのを考察を始めました。

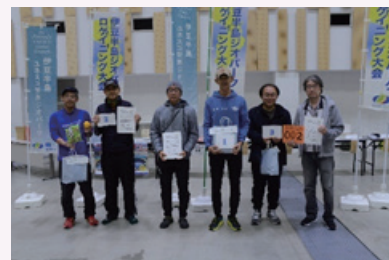
北はぐるめ街道から、南は西浦まで設定されたチェックポイントを、参加者は戦略を立てて、バスや自分の足でそれぞれのコースを巡りました。チェックポイントの一部では、名物の大福をふるまったり(清水町役場)、ジオパークのポスター展示(サントムーン)などで、チェックポイントに到達した参加者たちを迎えました。

表彰式では、もう一つのホストタウンである、町制施行60周年を迎えた清水町の関町長にお言葉をいただき、各部門上位3チームと特別賞(最遠方者と最高齢者)を表彰していただきました。大会参加者のアンケート回答で、再訪希望が最も多かったのは鮎壺の滝(11人)で、続いて香貫山・深海魚水族館(9人)、柿田川(8人)と続き、ジオサイトに興味を持つ参加者が多いことがわかりました。

旧ジオパーク推進協議会が開催してきた本大会は、伊東大会(2016年)、函南大会(17年)、西伊豆大会(18年)、南伊豆大会(19年)、伊豆の国大会(20年)、下田市(22年)大会に続いて7回目。次回8回目は松崎町での開催を予定しています。



スタートの合図で駆け出す参加者



表彰式の様子

GEORIA

展示

建築でたどる
伊豆文学と
伊豆の大地

GEORIA

“文士村”と称されるほど多くの文豪を魅了した天城地域を代表に、伊豆半島は多くの文人墨客に愛されてきた地域です。山々に囲まれた自然豊かな伊豆の温泉地は訪れた作家をやさしく癒し、国内外に知られる数多の名著が生まれました。この企画展では、伊豆文学の舞台となった旅館や別荘などを写真家の田畑みなお氏撮影の建築写真で紹介するとともに、この地で著される作品を大地の成り立ちになぞらえて、新たな視点で捉え直しました。太宰治が「斜陽」を執筆した際に滞在した安田屋旅館(沼津市)や、北原白秋や田山花袋、与謝野晶子といった文豪ゆかりの温泉旅館である落合楼(伊豆市)など、外観や内観を計14点の写真パネルで紹介しました。

GEORIA

GEORIA

12/20 伊豆総合高校土肥分校でのジオ学習

伊豆総合高校土肥分校では、自然災害と自然景観について学習しています。12月20日(水)には地震や津波、火山についての知識を深めるために伊豆市内でジオガイドとのフィールドワークを実施しました。見学先は安政東海地震で起きた津波が到達したといわれる池尻観音や船原山のスコリアなど。後世に災害の記録を残してくれた先人の記録や、地層に残された伊豆半島の歴史に興味を持つとともに防災意識を高める機会となりました。



波尻観音



船原山でスコリアを観察

1/27 関東 ESD 活動拠点研修



美しい伊豆創造センターは、持続可能な開発のための教育(ESD)のための49の活動拠点が作るネットワークに加盟しています。このネットワークでは、毎年先進事例を学ぶ研修会を東京の青山で開催しています。今年度は、伊豆半島ジオパークが実施した探究交流発表会とSDGsトレインが先進事例として取り上げられ、辻研究員が、「むすんで、つないでー地域と世代を超える担い手が出会う場としてのジオパーク」と題した講演を行いました。

この講演では、ジオパークの活動が、市町や地区の壁を越えて人々が出会う仕掛け、次世代が故郷の地域づくりに参加するための仕掛けとして、地方創生の強力な武器になることが紹介されました。

ジオ検定 1.2 級を実施

2016年の開始以来、毎年恒例となっている1・2級の伊豆半島ジオ検定が1月14日(日)に、三島と修善寺を会場に実施されました。7回目となる今回は、北伊豆・中伊豆エリアの方を中心に25名の方にご参加いただきました。

地質遺産の保護と活用からはじまったジオパーク。現在はその土地の生態遺産や文化遺産、持続可能な開発目標(SDGs)にまで活動の幅を広げています。伊豆半島の成り立ち以外の知識も問われるジオ検定1・2級は、受験者のチャレンジ精神を刺激し、大変有難いことにリピーターになってくださっている方もいます。今回の合格者数は8名(1級0名、2級8名)でした。2024年度も開催しますので、みなさまのご応募お待ちしております。

探究交流発表会

高校の「探究学習」や大学のプロジェクト型学習(PBL)など、地域で実際に起こっている問題の解決に取り組む生きた学びは、最近の教育界の大きなトレンドです。また、伊豆半島には、地域づくりに取り組んでいる若い社会起業家も大勢います。そんな若者たちが知り合い、協力して新しいプロジェクトを立ち上げたりする場として、この会は開かれました。

「持続可能な開発の担い手を作る」とは、伊豆半島ジオパークの教育活動の大きな目標です。そのための第一歩として、この回では静岡大学や地元企業と一緒に、若者たちの取組を支援しました。伊豆半島全体から集まった若者たちが地域のよりよい未来に向け、互いのプロジェクトから学び合う笑顔のあふれる楽しい会となりました。



ジオパーク学術研究助成

伊豆半島ジオパークでは、ジオパークの学術的な基盤となる研究の蓄積を目的に、伊豆半島のフィールドを対象とした人文、社会、自然科学調査研究を支援し、研究者を対象に調査研究費の助成をしています。令和5年度は次の2件の研究が採択されました。大下愛央氏(大阪公立大学大学院)による研究では、蛇石大池湿原を対象に、複数地点からボーリングコア試料を採取することで、過去約7000年間にわたる湿原形成史が明らかになりました。天野孝保氏(長崎大学大学院)による研究では、伊豆半島の森林において録音された環境音から、AIを用いて森林性鳥類の鳴き声を識別し、鳥類を指標にした森林環境の定量把握の可能性が明らかになりました。

3月10日の伊豆半島ジオパーク世界認定5周年記念イベントにて成果発表を行いました。



研究成果発表会の様子

2/7-9 地質物品の保護と販売をテーマに全国研修会開催

糸魚川ジオパークを会場に、JGN（日本ジオパークネットワーク）全国研修会が開催されました。全国各地のジオパーク関係者約50名が参加、伊豆半島ジオパークからも職員1名が参加しました。

地質物品の売買が原則禁止されているユネスコ世界ジオパークにおいて、なぜ糸魚川ジオパークではヒスイの販売が認められているのか。その背景や経緯、ヒスイを取り巻く現状など、「地質物品の保護と販売」をテーマに、保全ガイドラインやヒスイと糸魚川の歴史や暮らしの関わり、資源管理のありかたについて各地の実例を踏まえ、ジオパークの関係者と情報を共有し、議論を重ねました。



1/31 2023 年度第二回ビジターセンター情報交換会

企画中のツアーを体験



伊豆半島内にはほぼ全市町にジオパークビジターセンターがあります。ビジターセンター情報交換会は、市町の担当者とビジターセンターの現場に携わる皆様を対象にした情報交換会で、各地の情報や課題を共有する場となっています。ここでの要望から、昨年度より、年に一度会場を各地に移して各ビジターセンターの取組や事例を共有するようになりました。

2023 年度第二回ビジターセンター情報交換会は伊東ビジターセンター「ジオテラス」で行いました。当日参加者ははじめに施設を見学し、実際にジオテラスのスタッフが普段どのように来客を案内しているのかを体験しました。またジオテラスでモニタリング的に実施している VR を用いたガイドを体験し、伊豆半島のビジターセンターでどのように活用できるか意見を出し合いました。午後からはジオテラスで企画中のビジターセンター発着のジオツアーを体験しました。ツアー内容や料金設定などに関する参加者からのフィードバックはホスト側のビジターセンターにとっても有益なものとなりました。



VRを用いたガイドを体験

ジオキャラバン

ユネスコや世界ジオパークネットワークは、地域の誰もが意見を言える場を作り、草の根の声に耳を傾けて、組織の運営や事業計画の立案を行うことがジオパークには欠かせないとしています。そのような理想を実現するための第一歩として、伊東市、南伊豆町、西伊豆町の三カ所で、事務局の職員とジオガイドや住民が本音で話し合う対話集会が開かれました。

ガイド養成のあり方、地域の資源を活かした新たな商品づくり、教育、エコツーリズムなど幅広い話題について、たくさんの生きた声が寄せられました。地域の皆様と一緒によりよいジオパークを作るため、これからも伊豆半島の各地を巡る対話のキャラバンが続きます。



率直な声が飛び交うキャラバン

次世代ジオガイドリーダー養成事業

隈岐の島研修、南紀熊野ジオパークフェスタに参加しました。また5周年記念イベントではミニジオツアーや成果発表を行いました。若手ガイドを対象としたこの事業は他のジオパークからも先進的な取り組みとしては注目されています。令和6年度も継続して実施し、ガイドの資質向上に努めていきます。



5周年記念イベントではポスターを作成し、成果発表を行った



伊豆半島ジオパークのサポーターになりませんか？
サポーターには定期的にイベント等のお知らせをお送りします。
←詳細はこちら

発行元：(一社)美しい伊豆創造センター ジオパーク推進部
〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺838-1 修善寺総合会館内
☎ 0558-72-0520
✉ info@izugeopark.org
URL https://.izugeopark.org/



伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」
〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺838-1 修善寺総合会館内
開館時間／9:00～17:00(入館は閉館時間の30分前まで)
☎ 0558-72-0525
FAX 0558-72-1355
休館日／水曜日・年末年始(12/29～1/3)
(水曜が祝休日の場合は開館し、翌平日休館)

